仕事が楽しい人Ｆｉｌｅ．５９：八馬智さん（デザイン科学科教員）

◆これまでの就職慣例にとらわれずに働く場を見いだそう

第５９番目の仕事が楽しい人は、千葉工業大学のデザイン科学科の教員（准教授）
八馬智さんです。

八馬さんは学生に、
「これまで、デザイナーがあまり入社していない業界に就職せよ」と言っているそうです。

“デザイナー”とか“デザイン”は、日常的に使用され慣れ親しんでいる言葉なので、私は、“デザイナーがあまり入社していない業界”が、ピンときませんでした。
そこで、仕事が楽しい人の記事で毎回掲載している、“１３歳からのハローワーク”のＷＥＢサイトから、デザイナーに関連した職業名を抜粋してみました。

グラフィックデザイナー、インダストリアルデザイナー、エディトリアルデザイナー、ブックデザイナー、ゲームグラフィックデザイナー、Web デザイナー、キャラクターデザイナー、空間デザイナー、広告デザイナー、雑貨デザイナー
照明デザイナー、ディスプレイデザイナー、DTP デザイナー、パッケージデザイナー、プロダクトデザイナー、モバイルデザイナー

一覧にしてみると、「たくさんあるなぁ」という気もしますし、「こんなもんしかないんだ」という感じにもなり“デザイナーがあまり入社していない業界”が、はっきりしません。

では、ということで、経済産業省が定義する業種分類を抜粋してみました。

農業・林業・漁業、鉱業・採石業・砂利採取業、建設業、食料品、飲料・たばこ・飼料製造業、繊維工業、木材・木製品、パルプ・紙・紙加工品 製造業、化学工業、石油製品・石炭製品製造業、窯業・土石製品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製造業、金属製品製造業、はん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業、電気機械器具製造業、情報通信機械器具、電子部品・デバ イス・電子回路製造業、輸送機械器具製造業、その他の製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、宿泊業、飲食サービス業、教育、学習支援、医療、福祉、サービス業

この一覧を目にして、ようやく私は“デザイナーがあまり入社していない業界”がたくさんあるという実感が持ててきました。

ウィキペディアでは、
“デザインは日本語では「設計」にもあたり、「形態」や「意匠」と訳されてきたが、それだけに限らず、人間の行為（その多くは目的を持つ）をより良いかたちで適えるための「計画」も意味する。人間が作り出すものは特定の目的を持ち、それに適うようデザイナー（設計者）の手によって計画されるのである。”
と解説されています。

ここまで調べてみて私は、八馬さんが学生に伝授したいことが何か、やっとわかりました。
我々が目にするモノ、手にするモノ、口にするモノ、耳にするモノの全てには、何がしかの目的があって作られている。
逆に言うと、誰かがある目的を抱かなければ、“モノ”はこの世に存在しないわけです。
だから八馬さんは、デザイナーの活躍の場はあらゆる業界にあると考え、学生たちに、これまでの就職慣例にとらわれずに働く場を見いだそうとハッパをかけているのでしょう。

八馬さんは、市販のお菓子を題材にして、
「パッケージは、誰に向けて、何を訴えようとデザインされているのか」を問う授業をしています。
今、私の手元には、くまモンが印刷されたパッケージに入ったキットカットがあります。
「これは、旅行のお土産を探す人に、チョコレートとお茶のミックス味は、子どもにも女

性にも喜ばれるよと訴えているのかな」なんて、八馬さんの授業を受けた気になってイメージしてみました。
すると、自宅の机の上に置かれているエアコンのリモコンが視界に入りました。
中型の大きさで丸みを帯び、大きめの文字のリモコンは、
「シルバーエイジ向けに、操作をしやすいようにデザインされたのかな」。
書斎の真ん中にある腹筋の補助器具（〇〇コア）や、天井に付いているスプリンクラー、ベランダにある室外機、家の外に見える電線や電柱に変圧器、街灯、ＢＳ用のアンテナ、歩道などが目に飛び込み「これは、誰に向けて、何を訴えようとデザインされているか」との自問自答が止まらなくなってきました。
こんな意識でモノを観たのは、もちろん初めてです。

このように、わずか数十分でデザインの妙味を私に伝えた八馬さんが、どんな思いを持って、デザインと向き合ってきたのか、“当たり前は人目をひかない。だから関心を持ってもらいたい。”にてご案内します。

◆八馬さんが大切にするキーワード
つべこべ言わずにいいからやれ。話はそれからだ。
　八馬さんは、最初の授業にこのメッセージを学生に発します。
　何事も、やってみなければわからない。
　やってみなければ、わからないことが何かもわからない。
　受け身の姿勢が身に付いた学生を覚醒させるために、八馬さんは愛をこめてこのメッセージを伝え、自分も実践しています。

◆八馬さんのパワー〇〇
街歩きと写真撮影
　出張では、必ず仕事の前後の時間を確保して街を歩き、これはといったモノに目を付けて写真を撮っています。
　このインプット活動が、八馬さんのエネルギーの源です。

◆八馬さんのコツコツ
写真のコレクション
　八馬さんがこれまで撮影した写真は、八馬さんのブログに掲載されています。
　ブログ URL：http://hachim.hateblo.jp/
　また、写真のコレクションを基にして、「ヨーロッパのドボクを見に行こう」
　http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4426119030/futuredescri-22/
　も出版しています。

◆当たり前は人目をひかない。だから関心を持ってもらいたい。

八馬さんは、大学で工業意匠（プロダクト・デザイン）を専攻していました。
この学科からの卒業生の大半は、電機メーカーや自動車メーカーというデザイン部のある企業に就職していましたが、今、「デザイナーがあまり入社していない業界に就職せよ」と教鞭を執る八馬さんが、既定路線の企業を選ぶはずがない。
という私の勝手な期待通りに、八馬さんはデザインとは縁遠い、土木設計会社に就職しました。

“土木”をネット検索すると「地面の下が土木で、地面の上が建築」という解説がヒットしました。なんだか土木は華やかなイメージのデザインとは真逆で、地味な感じがします。

私が思い描く土木は、社会の基盤になる構造物。
例えば、道路、トンネル、下水溝、防波堤、ダム、橋など。
これらの中で、私がデザインと結びつく思える構造物は、橋ぐらいですので、確かに土木は、デザインとは程遠い分野のようです。

八馬さんが、土木系の企業に進路を定めるきっかけになったのは、大成建設が打ち出した“地図に残る仕事”というキャッチコピー。
この７文字が八馬さんの心を突き動かし“土木”に導いたのでした。

土木設計会社に勤めた八馬さんは、土木業界にデザインを浸透させる努力を重ねました。
依頼元の行政や造り手のゼネコンというあらゆる関係者の要求を加味しながらも、使い手の立場に立った最適なデザインをしようと働きかけましたが、なかなか受け入れられませんでした。
それもそのはずで、絶対に不具合があってはならない構造物を建造するのですから、安全堅牢さが第一優先で、デザインなど二の次と技術者が考えるのも、ある意味理解できるからです。
とは言うものの、八馬さんは、社会基盤という資産を後世に残していくのだから、安全堅牢さに加えて、見た目も美しいデザインの土木を造ろうと提案し続けました。
八馬さん曰く「デザインも品質の一つ」という主張です。

現実は岩盤のように厳しく、八馬さんの訴えはなかなか受け入れられないまま月日が流れました。

転機が訪れたのは、２０１０年。

出身大学に戻り、デザインの教育研究をしていた時に、サバティカル（長期休暇制度）を利用してオランダに渡った時でした。
大学の研究員としての滞在期間は、１年。
海外での限られた時間を、ただ大学に通い研究に没頭していたのではもったいないと思い、休日を利用して、奥様と一緒に近隣国をドライブしまくります。
目的は、欧州の土木建造物を観まくること。
オランダに加えて、フランス、ドイツ、ベルギー、スイス。
各国・各地域のダム、橋、港湾施設、産業遺産、運河エレベーターなど、ありとあらゆる建造物を写真に撮りまくりました。
そして、この写真に感想を添えて、ツイッターやブログに投稿しまくり、
しばらくすると、読者から様々な反応が返ってくるようになりました。

その後、
２０１３年と２０１４年の２年間、土木学会誌の表紙の制作を担当。
八馬さんが価値訴求したい、土木のデザインを強調した写真を掲載すると、「これまでにない基調だ」と、業界関係者から評判を呼びました。
２０１５年には、風変わりな旅行ガイドブック、
ヨーロッパのドボクを見に行こう
を出版。

そんなこんなと、動いていると、
八馬さんが志す土木デザインへの認知と理解が広がってきました。

八馬さんが“地図に残る仕事”のコピーに魅かれ「土木業界にデザインを」との志を掲げてから、苦節２０年。
ようやく、八馬さんの思いが実りだしたのです。

八馬さんに教えていただいた“インフラツーリズム”を検索すると、
１月２２日付けで開設された、国土交通省総合政策局のインフラツーリズムのポータルサイトがヒットしました。
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/index.html

このサイトを発見して私は、「思いは必ず通じるんだよ」と、八馬さんが笑顔で私に語り掛けてくれているような感覚に陥りました。
それは、２０年前には誰も考えていなかったインフラツーリズムが、今は、人気の旅行企画になっているからです。

少々大げさかもしれませんが、
「お堅いイメージの国土交通省をも動かせるんだ！」
こんな痛快な気分になりました。

「土木にデザインを！」の志を成就するのは、まだまだ先とのことですが、
八馬さんは、３Ｋ（きつい、汚い、危険）とか談合という言葉に総称される土木業界の好ましくないイメージの払しょくや、地域創成のきっかけづくりをインフラツーリズムから生み出そうとの志を掲げ、全国を飛び回っています。

「インフラはあって当たり前。だから、なかなか人の目を引かない。でも、なくなったら人間の社会基盤そのものが損なわれる。そんな重要な土木の構造物に、少しでも多くの人に関心を持ってもらいたい」。
この八馬さんの土木への愛を、私は、ほんの少しかもしれませんが感じられ、日常的に使っている道路や水道にありがたみを見いだせた、そんな貴重な機会になりました。

◆八馬さんのプロフィール
職業：デザイン科学科教員
所属：千葉工業大学　工学部　デザイン科学科

◆大学教授とは？
（13 歳からのハローワーク公式サイトから、類似職種を抜粋しました）
それぞれが専門分野を持ち、大学や付属の研究機関で研究するかたわら、学生に講義を行う。ふつうは大学や大学院を卒業後、助手や講師として大学に所属し、助教授（※1）を経て教授になる。ほとんどがその過程で博士号を取得している。研究論文を執筆して大学や学会に評価される必要があるが、教授職の欠員を待たなければならず、道のりは長くなかなか難しい。真にその学問が好きでなくてはできない仕事だ。一方、スポーツ界や芸能界、金融、行政などさまざまなジャンルで突出した才能と実績を認められれば、教授として大学に招かれることも多い。国際化、多様化の時代にあって新しい分野の学問も生まれており、学科の新設も増えている。終身雇用が基本だったが、大学間での活発な移動が少ない、研究や教師としての質が低下するなどの問題が指摘されたため、任期制や学生による評価制度などを導入する大学が増えている。学生が興味を持てる授業をするなど、ただ学問を教えるだけではない対応が求められている。

※1 編集部注：2007 年施行「学校教育法の一部を改正する法律」により助教授が廃止され、変わりに准教授が置かれることになった。

◆デザイン科学科教員に求められる能力

デザイン愛：デザインに込められた制作者の思いを感じとる力

突破力：慣例にとらわれずに、志を完遂させる力

計画力：偶然に頼らず、限られた時間を有効に使う力

蓄積力：集めた画像や映像を分類し、いつでも見つけ出せるように整理する力

分析力：蓄積された画像や映像を楽しみに変える力